

《担当者名》福田真二 fukuda@hoku-iryo-u.ac.jp

【概 要】

この科目では、言語聴覚学に関係する様々なトピックについて心理言語学的視点から学ぶ。

【学修目標】

【一般目標】

言語と脳の関係や文理解・文産出時の言語処理に関する研究動向について学び、それらの研究成果から得られた知見を統合的に理解する。

【行動目標】

- ことばの起源に関する諸説を理解し、述べることができる。
- ヒトの言語能力と動物のコミュニケーション能力の違いについて理解し、述べることができる。
- 文理解・文産出時における言語情報の脳内処理過程について理解し、説明できる。
- 文法・統語障害の症状の特徴について理解し、説明できる。
- 特異的言語発達障害を言語学的・脳科学的・遺伝学的アプローチで分析した研究の動向とその応用について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	科目の概要、学修目標、講義日程、学修内容、評価方法、レポート課題、推薦図書、学修の準備、読書課題、オフィスアワーの活用法を理解する。	福田真二
2 3	ことばの起源	ヒトのことばはいつ頃、どのような形で誕生したのだろうか。このテーマに関する諸説について学ぶ。 【ビデオ鑑賞：「言語の誕生」】	福田真二
4 5	ヒトのことばと動物のコミュニケーション	ヒトの言語能力と動物のコミュニケーション能力の違いについて学ぶ。 チンパンジーに手話言語を教えようと試みた研究から得られた知見について学ぶ。	福田真二
6	ことばの理解のメカニズムⅠ	文理解のメカニズムの基本について学ぶ。 統語理解の処理モデルについて学ぶ。	福田真二
7	ことばの理解のメカニズムⅡ	袋小路文、中央埋め込み文、曖昧文の理解過程について学ぶ。また、文理解時における言語性ワーキングメモリの役割について考える。	福田真二
8	ことばの発話のメカニズムⅠ	文発話のメカニズムの基本について学ぶ。 統語産出の処理モデルについて学ぶ。	福田真二
9	ことばの発話のメカニズムⅡ	発話時の「旧－新原則」と「短－長原則」について学ぶ。また、言い間違いが起きる過程について考える。 【小テスト①】	福田真二
10	言語の脳科学	言語学と脳科学を組み合わせた研究の近年の動向について学ぶ。 【ビデオ鑑賞：「言語の脳科学」】	福田真二
11	特異的言語発達障害Ⅰ	特異的言語発達障害の原因論に関する諸説について学ぶ。 キーワード：定義/診断基準/文法障害説/聴覚認知障害説/個人差説/環境説/併発する障害	福田真二
12	特異的言語発達障害Ⅱ	特異的言語発達障害の言語学的アプローチによる研究成果について学ぶ。 キーワード：文法障害/統語障害 【読書課題 ①：福田(2023)】	福田真二
13	特異的言語発達障害Ⅲ	特異的言語発達障害の言語学的アプローチによる研究成果について学ぶ。	福田真二

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		キーワード：症状の言語学的分析/失語症との比較 【読書課題 ②：長畑(1991)】	
14	特異的言語発達障害Ⅳ	特異的言語発達障害の脳科学的アプローチによる研究成果について学ぶ。 キーワード：ERPs/MEG/fMRI/PET/SPECT/NIRS 【読書課題 ③：春原ら(2002)】	福田真二
15	特異的言語障害Ⅴ	特異的言語発達障害の遺伝学的アプローチによる研究成果について学ぶ。 キーワード：家族性言語障害/双生児研究/言語遺伝子 【小テスト②】	福田真二

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート課題 40%、小テスト 60% (30%×2回)

【教科書】

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考書】

藤田郁代 他 編 「日本語の文法障害の臨床：失語症・特異的言語発達障害(SLI)をひもとく」 医学書院 2023年

萩原裕子 著 「脳にいどむ言語学」 岩波書店 1998年

酒井邦嘉 著 「言語の脳科学」 中公新書 2002年

酒井邦嘉 著 「チョムスキーと言語脳科学」 集英社インターナショナル 2019年

村杉恵子 著 「ことばとこころ：入門心理言語学」 テコム 2014年

杉崎鉦司 著 「はじめての言語獲得：普遍文法に基づくアプローチ」 岩波書店 2015年

池内 正幸 著 「新・ヒトのことばの起源と進化」 開拓社 2022年

ノーム・チョムスキー 他 著 「チョムスキー言語学講義：言語はいかにして進化したか」 ちくま学芸文庫 2017年

Leonard, L. B. 著 Children with specific language impairment, 2nd edition. The MIT Press 2014年

【備考】

- ・講義に関する連絡は、manabaを使用します。
- ・レポート課題の提示・回収は、manabaを利用します。

【学修の準備】

- ・予習は、指定された読書課題をして、理解できない部分をチェックしておくこと。(80分)
- ・復習は、講義の学修内容をまとめた勉強ノートを作成すること。(80分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。